

研究・調査報告書

報告書番号	担当
429	高崎健康福祉大学薬学部細胞生理化学研究室
題名（原題／訳）	
<p>Alcohol and hypertension: gender differences in dose-response relationships determined through systematic review and meta-analysis. アルコールと高血圧：系統的レビューとメタアナリシスで決定された用量－応答関連における性差</p>	
執筆者	
Taylor B, Irving HM, Baliunas D, Roerecke M, Patra J, Mohapatra S, Rehm J.	
掲載誌（番号又は発行年月日）	
Addiction. 104(12):1981-1990 (2009)	
キーワード	
アルコール、飲酒量、高血圧、性差、メタアナリシス	
<p>要 旨</p> <p>目的： アルコールと高血圧との関連については、男性と女性でいくらか混乱がある。多くの研究で、男性ではアルコール消費量と高血圧発症の危険性は比例関係にあることが示されている。一方、女性では中等度のアルコール摂取は高血圧の危険性に対して防御効果があることが示されている。本研究の目的は系統的レビューとメタアナリシスによって、平均的 1 日アルコール消費量と高血圧の危険性における用量－応答関連を分析することである。</p> <p>計画： 10 のデータベースでコンピュータ補助による検索を行い、関係する論文についてはさら個々に検索を行った。これらには、縦断研究、アルコール消費量の定量的解析、結果の生物学的解析を行っている研究のみが含まれる。用量－応答関連の評価は、一次線形回帰と二次多項回帰によって行った。不均一性や出版バイアスは補正した。</p> <p>結果： 米国、日本、韓国の文献から総数で 12 のコホート研究を抽出した。男性での飲酒量と高血圧発症危険性との関連で、純アルコール 50 g/日で相対危険 1.57、100 g/日で相対危険度 2.47 の直線的な関連性が認められた。女性でのメタアナリシスは、以前報告されていたのよりも緩やかな高血圧抑制効果（J-曲線）を示した：有意な抑制効果は純アルコール 5 g/日以下で認められ、50 g/日の摂取で相対危険度 1.81、100 g/日の摂取で相対危険 2.81 の直線的用量－応答関連が見られた。男性では、非アジア人種よりもアジア人種の方が高血圧発症の危険性が高かった。</p> <p>結論： 高血圧発症の危険性はアルコール消費量に比例して高くなる。男性、女性、共に、高血圧防止のためにはアルコール摂取を控えるように助言すべきである。</p>	